

事業名称	農村の魅力再発見事業		
団体名 (構成人数)	田園の風(5名)	代表者	鈴木 健司
事業の内容	四季を通した農業体験や農村ならではの田園の景観の体験、そして地域の人達との交流を図ることにより、県、内外にこの地域の魅力を発信する事業を展開する。 ①未利用地を活用した体験型農園の開設 小櫃川流域沿いは、以前から肥沃で豊かな田園が広がり、稲作栽培が盛んに行われていた。現在は、所々に耕作放棄地、未利用農地が見られ、環境等への悪化が懸念されている。 そこで、耕作放棄地などを活用し、四季を通した体験型農園を開設し、市内外の人達が農業体験や収穫の喜びを味わうことのできる農業の再発見の場を創出するものである。 道の駅「うまきたの里」の近接の農地を最大限に活用し、道の駅来訪者に対して、気軽にできる「プチ農業体験・収穫体験」を味わって頂くことにより、来客施設であり地域の活性化拠点である道の駅の魅力向上にも繋げていきたい。具体的には、道の駅近接地に「田園の風」が肥裁管理した体験型農園を開設し、四季折々の野菜等を立寄り気分で味わえる農業体験の場を提供するもので、道の駅来訪者に対して農地の触れ合いと収穫の喜びを体感してもらうものである。 (栽培予定作物・・・サツマイモ、ジャガイモ、枝豆(収穫体験・もぎとり体験)) ②田園ビューの魅力紹介 当小櫃川流域は小櫃平野の一部とする広々とした農地は、雄大な山並みが連なる箱根山系と対比しても引けをとらない美しい田園風景が広がっている。 特に、春先の早苗が植えられた頃は、緑のじゅうたんを敷いた様な一面萌黄色の田園、また収穫期を迎えた小金色の田園は遠くの山並みと融合し、ここで見られない風景が残っている。 そこで、それぞれの季節に、富来田地域の田園ビューの素晴らしさを体感してもらい、さらにはこの魅力を内外に発信していき、交流人口の増加等、地域の活性化に繋げていきたい。 具体的には、道の駅第二駐車場法面や農地の一部を利用して菜の花・コスモス等を咲かせるとともに七曲川沿いの高速道路下の道を整備し散策できるようにし、道の駅来訪者に富来田地域の美しさと「田園の風」を満喫してもらう。 ③伝統的な食生活体験の実践 当地域には、昔から受け繋げられている食生活があり、味噌づくりや麴づくり、時季により地域の味として親しまれている。 特に味噌用の大豆を煮た時に出る煮汁「とうぞ」は、市原や上総地方特有の保存食で、郷土の懐かしい味のひとつです。味噌用の大豆を煮た時に出る煮汁にこうじ、干しだいこん、煮大豆又は納豆などを入れて4～5日おいてからそのまま食べたり、あたたかいごはんの上にかけて食べたりします 具体的には、田園の風の調理場で行う味噌づくり体験を道の駅HP・SNSに掲載し体験者を募集し、昔からの食文化・食生活を体験してもらう。		

審査基準：
「公益性・実現性」

事業名称	農村の魅力再発見事業		
団体名 (構成人数)	田園の風(5名)	代表者	鈴木 健司
事業の必要性と 目的	小櫃川流域沿いは、所々に耕作放棄地、未利用農地が見られ、環境等への悪化が懸念されている。 そこで、耕作放棄地などを活用し、四季を通じた体験型農園の開設することにより、市内外の人達が収穫の喜びを味わうことにより、農業の再発見につなげたい。 併せて、道の駅「うまくだの里」の近接の農地を活用し、道の駅来訪者に対して、収穫体験をして頂く場を提供することにより、道の駅の魅力向上にもつなげていきたい。 また、圃場（農地）の管理（耕耘・草刈等）には、年間を通して多くの人手が必要となることから、地元のシルバー人材を活用するなど地域の雇用に繋がていきたい。 なお、当地域には、昔から受け繋がられている食文化では、味噌づくり、麴づくり等四季により地域の味として親しまれている。 そこで道の駅の多くの来訪者に対して、この地域の食文化に触れて頂くことで、その魅力を県内外に発信することができる。 更に当小櫃川流域は、美しい田園風景が広がっており、四季折々の富来田地域の田園ビューの素晴らしさを体感してもらい、この魅力を市内外に発信していくことにより、交流人口の増加等、地域の活性化に繋がていきたい。		
審査基準： 「公益性」			
スケジュール	1 未利用地を活用した体験型農園の開設 4月 未利用地の整備、耕運 5月 サツマイモの植え付け 6月 枝豆（大豆）の植え付け 7月 ジャガイモ収穫体験 9月 サツマイモの収穫体験 10月 枝豆の収穫・もぎとり体験 3月 ジャガイモの植え付け 2 田園ビューの魅力照会 5月 高速道路下の道の草刈り等の美化事業 6月 コスモス播種 10月 コスモス開花・摘み取り 3 伝統的な食体験 3月 麴づくり・味噌づくり体験・とうぞ（味わってもらおう）		
審査基準： 「実現性」			

事業名称	農村の魅力再発見事業		
団体名 (構成人数)	田園の風(5名)	代表者	鈴木 健司
事業の特色	①体験型農園(収穫体験) 道の駅に近い農地の立地条件を活かし、道の駅からの情報発信や観光協会からの案内等により、「子供から大人まで、手軽に楽しめる地元農産物の収穫体験」をテーマに、多くの人達に本当の味・採れたての味を知って頂くと同時に農地の恵みを体感してもらう。 さらには、地大豆など地域の農産物の素晴らしさを知って頂き、木更津市富来田の味としてリピーターを確保し地域の活性化にも繋げたい。 ②田園ビューの魅力照会 小櫃川流域・田園、久留里線沿線の魅力を再発見し広報するものであり、この魅力を周知することにより、交流人口の拡大や地域の人達の定住促進にもつなげたい。 ③伝統的な食生活体験 最近では、直接関ることが少なくなった麴づくり・味噌づくり・とうもろこし等、農村ならではの食生活体験を地域の人達と交流楽しみながら、触れ合って頂くものである。		
来年度以降の 事業展開予定	コロナ禍の状況下においては、人の移動が制限され、交流を意識した事業は厳しい状況が続いている。 何を変え、何を守り抜くかを見極めながら、ピンチをチャンスに繋げていけるような事業を推進していきたい。 特に、道の駅や地域住民と連携しながら、来訪者に喜んで頂けるような魅力的な事業の展開を予定していくこととし、道の駅周辺に菜の花、コスモスヒマワリ等を植栽するとともに七曲川周辺の環境美化にも繋げる。 食生活体験等についても手法を検討しつつ、地域資源を有効に活用していきたい。 また、体験型農園については、体験者のニーズ・状況を把握しながら作付けの種類や面積の拡大を図っていきたい。		

事業名称	農村の魅力再発見事業		
団体名 (構成人数)	田園の風(5名)	代表者	鈴木 健司
過去の活動実績	2月27日 麴づくり 3月1日～6日 味噌づくり体験 3月26日 ジャガイモ植え付け 5月8日 道の駅圃場にサツマイモ蔓植え付け 6月3日 枝豆オーナー制の圃場・味噌用大豆の圃場の耕耘 6月4日 各圃場への鶏糞まき 6月5日 各圃場へのマルチ敷き 6月11日 ジャガイモ畝の整備 6月18日、19日 ジャガイモほり体験 6月25日、26日 各圃場への大豆種まき 7月18日、31日 各圃場の畦道等の草刈り・除草剤まき 8月21日 道の駅第二駐車場法面へのコスモスの種植え 9月10日 各大豆圃場への害虫駆除 10月8日 枝豆・サツマイモ収穫体験の準備 10月15日、16日 枝豆オーナー制の収穫体験 10月20日 道の駅5周年記念に枝豆50個出荷 10月22日、23日 枝豆・サツマイモ収穫体験 11月26日、27日 大豆刈り・束ね作業 12月15日、16日 大豆の脱穀 12月23日 正月用お飾りづくり体験の準備 12月24日、25日 正月用お飾りづくり体験 1月11日 大豆の選別 2月下旬 麴づくり(予定) 3月上旬 味噌づくり(予定) 3月下旬 ジャガイモ植え付け(予定)		

令和5年度木更津市協働のまちづくり活動支援事業 提案事業

No. 1

事業名称	農村の魅力再発見事業		
団体名 (構成人数)	田園の風(5名)	代表者	鈴木 健司

収支予算書

収入項目	金額 (円)	備考	支出項目	金額 (円)	備考
協働のまちづくり活動支援金	500,000		賃料・使用料	150,000	圃場、脱穀機・選別機、自治会館使用料、道の整備工具類等
収穫体験料	130,000	ジャガイモ・サツマイモ・枝豆 各収穫500円×100名、オーナー収穫4,000円×20名	委託費	170,000	シルバー人材(草取り、大豆種まき・大豆束ね作業6人日52,400円)支援者(大豆種まき・大豆束ね作業、収穫体験支援作業、麴・味噌づくり支援作業 21人日 21日×7H×800円 117,600円)
食生活体験料	100,000	味噌づくり4,000円×25名			
自己資金	20,000		原材料費	200,000	ジャガイモ、サツマイモ、コスモス、菜の花の種、米、麴菌、塩、道の整備用の砂等
			燃料費	40,000	ガソリン、軽油、混合ガソリン
			消耗品費	100,000	除草剤、化成肥料、黒マルチ(ビニール)、米袋(麴用、味噌用)、コピー用紙、カートリッジ等
			通信費	30,000	切手代等
			備品購入費	60,000	大豆種まき機、のぼり旗等
合計	750,000		合計	750,000	

事業名称	プレーパーク事業		
団体名 (構成人数)	太田山プレーパーク(3名)	代表者	小磯 恵理子
事業の内容	・プレーパークの開催 毎週金曜日15:00～17:00 毎月第2土曜日10:00～16:00 ・外部講師を招いての市民参加イベントの開催		
審査基準： 「公益性・実現性」			
事業の必要性と 目的	1、遊び場の不足 核家族や共働きの増加、一人っ子等、さまざまな環境により、放課後や休日 に外で遊ぶ機会が無かったり、子ども達の居場所が無い状況がある。 家でゲームをして、1日外遊びをせず、過ごす子どもが増えている。 →ここに行けば誰かがいる！という安心感を与え、信頼できる地域の大人との 交流の場の提供が必要。単発の開催ではなく、定期的に継続して行く事が最も 重要。 2、異年齢同士のコミュニケーション不足 家族や学校以外の人との交流が少ない。安心できる遊び場の減少により、異 年齢との交流の場が無い。 →遊びを通じて様々な考え、立場、環境の人がいる事を知る機会を与えたい。 年配者への尊敬、年下への優しさ等、当たり前な気持ちを自然と身に着ける環 境を地域の大人が提供する必要がある。 3、経験不足による思考力の低下 本来遊びから得られる様々な感覚を学ぶ機会が無く、自分で考えて行動する 事ができない。遊具等、ルールのある物がないと遊び方がわからない子どもが 増えている。 →自然の中で自ら遊びを作り出し、極力禁止事項をなくした環境＝プレーパー クが必要。大人は大きな事故が起きないように見守り、遊びのきっかけを作る だけであることが大切。しかし、ただ野放しにするのではなく、必要な時に相 談が出来る大人のいる環境を与える必要がある。 4、公園の魅力不足・整備不足 公園に人がいない。遊具が撤去されていて子ども達は何をしてよいかわから ない。 →自然があるからこそ出来る遊び場がプレーパーク。 そこにある木にロープを掛け、ブランコやハンモック遊び。水遊び。落ち葉集 めや昆虫採集。ただ寝転ぶだけ…太田山公園は自分で遊びを作り出すことがで きる自然の宝庫である。遊びのきっかけを作り、定期開催する事で子ども達に 安心感を与え、遊びを通じて生きる力を育むことが出来る。 そのままの公園の姿でその公園の持つ本来の魅力を提案する事が出来る。		
審査基準： 「公益性」			

事業名称	プレーパーク事業		
団体名 (構成人数)	太田山プレーパーク(3名)	代表者	小磯 恵理子
スケジュール	・プレーパーク事業の開催 毎週金曜日15:00～17:00 毎月第2土曜日10:00～16:00 ・ロープを使ったブランコや、ハンモックの設置 ・廃材等を使った工作コーナーの設置 ・駒などの昔遊びコーナーの設置 ・シャボン玉の設置 ・その他、季節や状況に応じた遊びのきっかけ作り ・外部講師を招いての市民参加イベントの開催 令和5年度予定 3月 春の自然観察会 6月 ロープネット遊びをしよう 9月 秋の虫を探してみよう 12月 太田山公園の魅力を知ろう ・令和5年度はより市民への認知度を高める事を目標とし、チラシやポスターを使った周知に力を入れる。		
事業の特色	自分の責任で自由に遊ぶをモットーに、自然そのものを使った遊びを提案する。日常の中出来にくくなった大胆な遊びを通じて子どもの自主性や、生きる力を育みます。 赤ちゃんから年配者まで、誰もが自分を出せる環境作りを提案し、地域活性化、異年齢同士の交流の場を提供します。 遊びの中心は子どもであり、大人は大きな事故を防ぐ見守りや相談相手となります。「静かにしなさい」「迷惑をかけちゃいけません」はありません。 極力禁止事項を無くすことで子育て中の保護者の持つ「思いっきり遊ばせたい」の気持ちにこたえる事が出来るのがプレーパークです。		
来年度以降の 事業展開予定	毎週金曜日、第2土曜日の定期開催を継続する。 地域ボランティアの増員を目指し、子ども達がより安心できる環境で遊べるようにする。		
過去の活動実績	令和4年度活動実績 毎週金曜日15:00～17:00 毎月第2土曜日10:00～16:00 参加人数 金曜日平均15人 土曜日平均40人 地域ボランティア 2名 外部講師を招いての活動 ・外部プレーワーカーを招いてのプレーパーク開催 ・きのこ観察会 ・ロープネット遊び ・自然観察会		

事業名称	プレーパーク事業		
団体名 (構成人数)	太田山プレーパーク(3名)	代表者	小磯 恵理子

収支予算書

収入項目	金額 (円)	備考	支出項目	金額 (円)	備考
協働のまちづくり 活動支援金	300,000		消耗品費	333,000	遊び道具、木工道具、文房具、雑貨
エコロ福祉助成金	200,000		報償費	120,000	外部講師謝礼、ボランティア飲料水
			印刷製本費	35,000	ポスター、チラシ、名刺
			使用料・賃借料	12,000	遊具賃借料
合計	500,000		合計	500,000	

事業名称	健康よろず相談室											
団体名 (構成人数)	一般社団法人 健康よろず相談室（4名）	代表者	齋藤 武									
事業の内容	一般社団法人健康よろず相談室は平成29年に設立した非営利法人です。「病院に行くほどでもないけど、ちょっと相談したい」そんな時、気軽に立ち寄って頂ける場所として、相談室を設立いたしました。 健康よろず相談室」は生徒の相談や癒しの場としての機能も果たしている「学校の保健室」のように、心や身体についての様々な気がかりや問題を、老若男女問わず気軽に専門職に相談することができる場と機能のことです。 現在、地元の専門職（薬剤師、弁護士、コーチング、カウンセリング、傾聴等）がボランティアで相談を受け付けており、岩根公民館や金田地域交流センター、立ち寄り館にて月1回ずつ活動を行っております。 相談内容は多岐にわたり、薬剤師の行う服薬相談や傾聴ボランティアによる心の相談、さらには介護相談や子育て相談等を受け付けています。 また、相談だけではなく、必要に応じて各学校や福祉施設等に訪問し、薬育教育や薬物乱用防止やイジメ撲滅運動等の講演も行っております。 上記の相談業務等を限られたボランティアだけでも実施していけるよう、相談内容を明確化する為のタッチ式のデジタル問診票を作成中です。トップページの「医療」「介護」「法律」「その他」の選択肢の中から「医療」を選択した場合、次のページでは「病院について」「お薬について」など、枝分かれしていく仕様となっています。令和5年度では今の試作段階から実用段階へとウェブアプリを更新し、デジタルサイネージ等に落とし込み、円滑かつ適正な相談受付が出来るように環境整備を進めています。 これらの機器を公民館等に設置し、事業の周知と相談窓口の紹介・行政情報や地域情報を取り入れることで、わざわざ病院や市役所に行くまでもなく、簡易な相談業務が地域でできることで、担当者の業務の軽減と効率化を実現していきます。											
審査基準： 「公益性・実現性」	<table><tr><th>令和3年度</th><th>令和4年度</th><th>令和5年度</th></tr><tr><td>終了と継続</td><td>実行中（1月現在）</td><td>予定</td></tr><tr><td> ・WEB アプリのインターフェースの構築 ・全体設計 ・ペルソナ設定 ・HTML コーディング ・デザイン ・CSV コーディング ・動作検証 </td><td> ・心の相談のタブと階層の構築 ・メールソフトとの連携構築 ・LINE との連携構築 ・facetime との連携構築 ・らぶナビとの連携構築 ・他の相談内容の階層掘り下げ ・各団体との連携強化 </td><td> ・今までの情報を入れ込んだアプリの作成 ・オンライン診療・服薬指導との連携構築 ・個人情報保護セキュリティ強化 ・LINE との連携構築 ・各団体との連携強化 ・HTML コーディング ・デザイン ・CSV コーディング ・動作検証 </td></tr></table>			令和3年度	令和4年度	令和5年度	終了と継続	実行中（1月現在）	予定	・WEB アプリのインターフェースの構築 ・全体設計 ・ペルソナ設定 ・HTML コーディング ・デザイン ・CSV コーディング ・動作検証	・心の相談のタブと階層の構築 ・メールソフトとの連携構築 ・LINE との連携構築 ・facetime との連携構築 ・らぶナビとの連携構築 ・他の相談内容の階層掘り下げ ・各団体との連携強化	・今までの情報を入れ込んだアプリの作成 ・オンライン診療・服薬指導との連携構築 ・個人情報保護セキュリティ強化 ・LINE との連携構築 ・各団体との連携強化 ・HTML コーディング ・デザイン ・CSV コーディング ・動作検証
令和3年度	令和4年度	令和5年度										
終了と継続	実行中（1月現在）	予定										
・WEB アプリのインターフェースの構築 ・全体設計 ・ペルソナ設定 ・HTML コーディング ・デザイン ・CSV コーディング ・動作検証	・心の相談のタブと階層の構築 ・メールソフトとの連携構築 ・LINE との連携構築 ・facetime との連携構築 ・らぶナビとの連携構築 ・他の相談内容の階層掘り下げ ・各団体との連携強化	・今までの情報を入れ込んだアプリの作成 ・オンライン診療・服薬指導との連携構築 ・個人情報保護セキュリティ強化 ・LINE との連携構築 ・各団体との連携強化 ・HTML コーディング ・デザイン ・CSV コーディング ・動作検証										

事業名称	健康よろず相談室																								
団体名 (構成人数)	一般社団法人 健康よろず相談室（4名）	代表者	齋藤 武																						
	健康よろず相談室 健康よろず相談室とは？ 生徒の相談や癒しの場として機能を果たしている「学校の保健室」のように、心や身体についての様々な気がかりや問題を、誰でも専門職に気軽に相談することができる場と機能のことです！詳しくは裏面へ！ <table><tr><th>内容</th><th>詳細</th></tr><tr><td>1 健康相談</td><td>血圧や日常生活体力、体脂肪率、骨密度などを測定し、からだの状態をみながら健康や生活に関する相談を行い、サポートします。 人との交流・ふれあいの場としてのサロンの役割、外出促進としての機能も果たします。</td></tr><tr><td>2 子育て支援</td><td>育児相談、親の健康相談など、心配事が絶えない子育てを応援・サポートします。 また、育児の孤立化しないよう親同士の仲間づくりや、親子ともに心と体の健康維持を目指します。</td></tr><tr><td>3 介護相談</td><td>介護予防、介護サービス、成年後見人、高齢者虐待など介護全般の相談をお受けします。</td></tr><tr><td>4 ミニ講話</td><td>テーマを決めて、各部門のプロフェッショナルがお話します。</td></tr><tr><td>5 服薬相談</td><td>普段飲んでいるお薬の相談や、処方箋薬のデリバリーサービス。 日々の健康を自分自身で管理できるよう、飲み方や使い方をオンラインで薬剤師と対話しながら相談することもできます。</td></tr><tr><td>6 買い物支援</td><td>イオン、セブン&i、楽天、アマゾン、地元のスーパー等と連携したインターネットなどのお買い物を代行します。</td></tr><tr><td>7 子供預かり</td><td>ファミリーサポート等を利用して、お子様を一時お預かりします。</td></tr><tr><td>8 各種サービス案内</td><td>相談内容により適切な相談箇所につなぎ、その場で途切れることなく問題解決に努めます。</td></tr><tr><td>9 家事代行</td><td>NPO・シルバー人材等を利用したサービスです。</td></tr><tr><td>10 その他</td><td>法律相談や成年後見人、孤立・孤独の予防 認知症の方の見守り機能を実施します。（アプリなどを利用）</td></tr></table>			内容	詳細	1 健康相談	血圧や日常生活体力、体脂肪率、骨密度などを測定し、からだの状態をみながら健康や生活に関する相談を行い、サポートします。 人との交流・ふれあいの場としてのサロンの役割、外出促進としての機能も果たします。	2 子育て支援	育児相談、親の健康相談など、心配事が絶えない子育てを応援・サポートします。 また、育児の孤立化しないよう親同士の仲間づくりや、親子ともに心と体の健康維持を目指します。	3 介護相談	介護予防、介護サービス、成年後見人、高齢者虐待など介護全般の相談をお受けします。	4 ミニ講話	テーマを決めて、各部門のプロフェッショナルがお話します。	5 服薬相談	普段飲んでいるお薬の相談や、処方箋薬のデリバリーサービス。 日々の健康を自分自身で管理できるよう、飲み方や使い方をオンラインで薬剤師と対話しながら相談することもできます。	6 買い物支援	イオン、セブン&i、楽天、アマゾン、地元のスーパー等と連携したインターネットなどのお買い物を代行します。	7 子供預かり	ファミリーサポート等を利用して、お子様を一時お預かりします。	8 各種サービス案内	相談内容により適切な相談箇所につなぎ、その場で途切れることなく問題解決に努めます。	9 家事代行	NPO・シルバー人材等を利用したサービスです。	10 その他	法律相談や成年後見人、孤立・孤独の予防 認知症の方の見守り機能を実施します。（アプリなどを利用）
内容	詳細																								
1 健康相談	血圧や日常生活体力、体脂肪率、骨密度などを測定し、からだの状態をみながら健康や生活に関する相談を行い、サポートします。 人との交流・ふれあいの場としてのサロンの役割、外出促進としての機能も果たします。																								
2 子育て支援	育児相談、親の健康相談など、心配事が絶えない子育てを応援・サポートします。 また、育児の孤立化しないよう親同士の仲間づくりや、親子ともに心と体の健康維持を目指します。																								
3 介護相談	介護予防、介護サービス、成年後見人、高齢者虐待など介護全般の相談をお受けします。																								
4 ミニ講話	テーマを決めて、各部門のプロフェッショナルがお話します。																								
5 服薬相談	普段飲んでいるお薬の相談や、処方箋薬のデリバリーサービス。 日々の健康を自分自身で管理できるよう、飲み方や使い方をオンラインで薬剤師と対話しながら相談することもできます。																								
6 買い物支援	イオン、セブン&i、楽天、アマゾン、地元のスーパー等と連携したインターネットなどのお買い物を代行します。																								
7 子供預かり	ファミリーサポート等を利用して、お子様を一時お預かりします。																								
8 各種サービス案内	相談内容により適切な相談箇所につなぎ、その場で途切れることなく問題解決に努めます。																								
9 家事代行	NPO・シルバー人材等を利用したサービスです。																								
10 その他	法律相談や成年後見人、孤立・孤独の予防 認知症の方の見守り機能を実施します。（アプリなどを利用）																								

事業名称	健康よろず相談室		
団体名 (構成人数)	一般社団法人 健康よろず相談室（4名）	代表者	齋藤 武
事業の必要性と 目的	少子化の進行による本格的な人口減少社会の到来、平均寿命の伸長による超高齢社会の到来等、日本の人口構造は大きく変容してきております。 木更津市においても少子化、超高齢社会の影響は課題となっており、そのような社会構造の変化に柔軟に対応していくためには、行政主体ではなく、市民をはじめ、各種団体、企業など地域社会を構成する多様な主体が自主的かつ主体的に行動し、安心して暮らしていける持続可能な地域づくりを行っていく必要があります。 健康よろず相談室は、高齢者をはじめとする地域住民が自身の健康状態に合わせた管理方法を主体的に選択・実践できるよう、多様なニーズに柔軟に対応していきます。多岐にわたる相談を受け付けることで、公的機関よりも、より身近に相談できる場所を市民へと提供し、市役所や病院等の公共機関への相談の前捌き機関として機能させます。 市役所においては、相談業務の減少による人件費の削減、本来行うべきである業務への注視が図れます。 病院においては、超高齢社会を迎えていくなかで患者数増加に伴い、医療費の増大が懸念されます。この現状の中、よろず相談室が機能すれば、既存のシステムでは解決が難しい「未病」へのアプローチも可能となります。 市民にとっては過度に病院に相談する必要がなく、時間的、空間的、金銭的な余裕につながります。 将来的には木更津市内に健康よろず相談室を広げていき、新たなボランティアスタッフ等の協力者を募り、市民が安心して暮らしていける「共助」のプラットフォームを作り、持続可能なまちづくりを目指します。		

審査基準：
「公益性」

事業名称	健康よろず相談室		
団体名 (構成人数)	一般社団法人 健康よろず相談室 (4名)	代表者	齋藤 武
スケジュール	・健康よろず相談室 ①毎月第3水曜日 岩根公民館 ②毎月第2水曜日 金田地域交流センター ・講演会月に1回程度 公民館・小・中学校 依頼いただいた内容(薬物乱用防止等)に加え、いじめや自殺企図の防止の講話を追加。老若男女問わず気軽に相談していい「よろず相談室」の紹介 ・市内中心市街地活性化協議会への参画 中心市街地でのオンライン診療や市街地外へ移ってしまった様々なインフラの再構築を図る。 ・コンテンツ 第一部(令和3年度) 概要の構築 ①WEBアプリのインターフェイスの構築 ②全体設計 ③ペルソナ設定 第二部(令和4年度) 情報収集と受付可能枠を広げるための多職種へのアプローチ ①相談内容等の階層の深化 ②各種関係団体との連携強化 第三部(令和5年度) より階層を深めアプリの実用化を目指します ①ソーシャルベンチャーの専門家からアドバイスを受けながら、今までの情報等をアプリへ落とし込み実用化 ②他のソリューションとの連携 ③オンライン診療・オンライン服薬指導・健康相談をミックスしより適切な医療へとつなげる。(医療費の削減・適正化)		
事業の特色	多様な主体が協働しながら、共助の仕組みを構築し持続可能なまちづくりを行っていきます。2019年の朝日新聞取材時では日本に全く同じシステムはなく、その後も各地で派生をみますが、未だこれらのシステムが機能している自治体の声は聞こえてきていません。様々な企業・団体と打ち合わせを重ね連携を強化し、住民に対するセーフティネットの構築を進めています。 「人的コミュニティの構築」と「DX化」を、同時かつシームレスに進めるには、当該市の特徴とデジタルの分野に明るい団体が不可欠となっています。その役割の一翼を健康よろず相談室は担います。 行政は新たな前捌き機関が創出されることで、業務負担の軽減につながるとともに、本来の仕事である市民サービス業務に注力でき、市民満足度もあがります。 また、専門家が「心の相談」にも乗ることや、食事や運動分野のアドバイスをすることで病気を未然に防ぐことができ、医療費の適正化が図れ、超高齢社会をむかえる際の社会保障費対策として効果を期待できます。この仕組みを整え実践することで、全国に先駆け「自助・共助・公助の理想的モデル」を築き上げることが出来ます。 健康よろず相談室では、来ていただいた相談者以外にも、自助を目的とし、身体や心の健康についての講演会や、問い合わせの多い疾病に関する勉強会などを行っております。 ひとりひとりの意識を上げていく事で、様々な角度から「未病」へのアプローチを行います。		

審査基準：
「実現性」

審査基準：
「独創性」

事業名称	健康よろず相談室		
団体名 (構成人数)	一般社団法人 健康よろず相談室 (4名)	代表者	齋藤 武
来年度以降の 事業展開予定	・ICTを駆使した業務の効率化 ・制作したWEBアプリにてオンラインで医療関係の相談業務の受付開始 ・既存団体や企業などとの連携強化による相談内容受付への強化 ・講演会や説明会を通じた地域住民の専門知識向上 ・地域住民と専門家のニーズマッチングのプラットフォームとしての機能強化 ・無医村地区への医療・未病インフラの構築 現在活動はボランティアで行っているが、システムのデジタル化が進み相談者と専門家双方の利便性が向上すれば、当事者たちの相談業務負担軽減へと繋がり、専門家（企業）は相談者（顧客）と繋がる事で、バックエンドの自社のサービス等につなげやすくなります。 専門家（企業）をよろず相談室で精査・管理することにより、余計な詐欺や過払い等の不利益も避けることが出来ます。 デジタルシステム構築後は企業から賛助会費を集め自走していく予定となっております。		
審査基準： 「発展性・自立性」			
過去の活動実績	2018年より岩根公民館にてスタートし金田地域交流センター、立ち寄り館をと活動の場を広げており、相談人数の延べ人数は400人を超え、現在も相談者は増えています。 ・岩根公民館 相談会実施 ・金田公民館 相談会実施 ・木更津市立ち寄り館にて 相談会実施 ・地域郵便局のフェアにて相談会実施 ・公民館での講演会・説明会 ・お寺にて講演会 ・地域サロンにて相談会、説明会、実施 ・民生委員会会議への参加、説明 ・地域ケア会議への参加 ・自立支援に資するケア会議への参加 ・多地区合同の地域資源研究会への参加、説明 ・校長会への参加と説明 ・木更津市小中学校、木更津市広報、公民館報、新聞、地域コミュニティSNS等に活動掲載		

事業名称	健康よろず相談室		
団体名 (構成人数)	一般社団法人 健康よろず相談室（4名）	代表者	齋藤 武

収支予算書

収入項目	金額（円）	備考	支出項目	金額（円）	備考
協働のまちづくり活動支援金	500,000		委託費	695,000	Webアプリ作成費
自己資金	275,000		消耗品費	30,000	事務用品・用紙代
			印刷製本費	30,000	チラシ（200部） ポスター（50部）
			報償費	20,000	外部講師への謝礼 （ソーシャルベン チャー専門家から のアドバイスへの 謝礼）
合計	775,000		合計	775,000	

事業名称	木更津市立東清小を存続させる事業		
団体名 (構成人数)	「輝け！東清小、未来の会」 (45 名)	代表者	三根 裕之
事業の内容	木更津市立東清小学校を存続させる為に下記の事業を実施する。 1, 生徒数を増やすために東清小が小規模特認校であることのPR活動（チラシの製作、各 保育園&幼稚園、近隣地域への配布活動、SNSによるPR活動、垂れ幕・ステッカーの製作、掲示） 2, 「輝け！東清小、未来の会」の会報の製作、地域自治会への配布 3, 東清小ならではの特色ある活動を行って生徒数を増やす。 （プロのオペラ合唱団による演奏会及び指導、サツマイモについての勉強会、苗植え、 収穫祭、ホタル探索会、しめ縄作り、コスモス播種、花鑑賞会、新1年生及び新入生 に対する新米の配布活動、シイタケ栽培の勉強及び実践） 4, 東清小の児童の安全を守る活動 見守り隊による登下校時の見守り活動の実施		
審査基準： 「公益性・実現性」			
事業の必要性と 目的	少子化により東清小学校の児童は年々減少し令和2年4月には木更津市教育委員会から令和4年4月に南清小と統廃合の素案が出されました。しかし、小規模特認校である東清小には学区外から転校・入学してきている児童たちがいました。小規模校を希望してきている子供たちの行き先をまた変えてしまっても良いものか？また高齢者が多い地区を活性化したいとの思いから「輝け！東清小未来の会」が作られました。2年間活動してきて、「東清小」という名前も少しずつ知ってもらえるようになり、令和5年2月現在で全校児童55名のうち29名が学区外から通学の児童です。この4月には20名の新1年生が入学する予定です。活動を通して、「大規模校では得られない子供の居場所や、活躍した達成感」を求めている親や子がたくさんいることがわかりました。東清小に入学するために引っ越して来てくれた方もいます。地元住民ができることで参加して地区も活性化していき、子供達も自分らしさを発揮できる場をなくさない活動が必要であり、続けていきたいと考えます。東清小学校をもっと知ってもらい、「保護者や児童が東清小に行きたい、行かせたい」と思う学校にするために、地道に辛抱強く活動を続け、PRを行うことが我々に出来ることではないかと思ひます。		
審査基準： 「公益性」			
スケジュール	・4月は新1年生への新米プレゼントの目録配布、新1年生歓迎会 ・5月はサツマイモの勉強会、苗植え ・6月はホタルの探索会、東清小PRのチラシの製作、配布（ナチュラルへの参加） ・7月は防災デーキャンプの実施 ・9月新1年生への新米の配布、プロのオペラ合唱団による演奏会及び指導 ・10月はサツマイモ収穫祭 ・11月はコスモス鑑賞会、東清小PRチラシの配布（オーガニックフェスへの参加） ・12月は東清公民館主催のしめ縄作り体験への協力 ・1,2月はシイタケ栽培の勉強会、及び実践、ツリーイングの協力 ・令和5年4月から令和6年3月までの通年活動としての見守り隊の活動、及び「輝け！東清小未来の会」月報の製作配布、SNSでのPR活動 以上を予定しています。		
審査基準： 「実現性」			

事業名称	木更津市立東清小を存続させる事業		
団体名 (構成人数)	「輝け！東清小、未来の会」 (45 名)	代表者	三根 裕之
事業の特色	本事業は東清小を存続させるために、地元住民と東清小学校とPTA、教育委員会、学童保育、まちづくり協議会が一丸となって地域の特色を生かした活動を行い、東清小の児童数を増やして東清小を存続させる会です。地域住民も東清小を存続させたいと願う人がアンケート結果632人いることから、存続させることが我々に課せられた使命と思っています。また、地域の特色として、山あり、田んぼありでシイタケ栽培、田植え、ホタル探索が出来るし、東清川駅から徒歩1分のところに東清小があり、また、東京・横浜・川崎からアクアライン使用で45分以内に通勤可能だし、学童保育所が東清小内にあるために保護者は、安心して働ける環境にあると思います。また、現在、東清小児童数は55名のうち、学区外からの通学者は29名と、53%を占め学区外の児童からも人気のある学校として躍進中です。それに、令和5年4月の新1年生は20名で、学区内4名、学区外は16名と80%は学区外からの児童となっています。		
来年度以降の事業展開予定	令和5年4月1日の入学児童数10名の目標に対し20名と予想外の児童が東清小に来て下さいました。これは昨年の我々の活動と東清小PRとスクールバスの運行の成果が徐々に出てきたのではないかと思います。令和4年8月からは清川地区15の全自治会から我々の活動に対しての賛同が得られたので、来年度以降からは東清小・PTA・学童保育・まちづくり協議会と協力して今までの活動を継続していきたいと考えています。また、チラシ・回覧板・SNS等を利用して各幼稚園や職場・地区外の自治会へ、「自然と便利さを併せ持った東清小」「少人数校のメリット」をPRしていきます。令和6年4月1日新入学者目標10名！		

事業名称	木更津市立東清小を存続させる事業		
団体名 (構成人数)	「輝け！東清小、未来の会」 (45 名)	代表者	三根 裕之
過去の活動実績	令和4年度の活動実績は ・4月 新1年生に新米プレゼントの目録渡し、タケノコ掘り実施 ・5月 サツマイモ植え体験の実施、東清川地区まちづくり協議会で、「輝け！東清小未来の会」のプレゼン実施 ・6月 木更津市ナチュラルバルで東清小PRのチラシ配布、コスモスの播種、蛍観賞会の実施 ・7月 東清小オープンスクール時に駐車場の案内とお出迎・お見送り、きさらづ広報に「「輝け！東清小、未来の会」の活動を載せる為の原稿提出 ・8月 「輝け！東清小、未来の会」作成の東清小PRのチラシの作成 「輝け！東清小、未来の会」作成の横断幕の贈呈式と取替え ・9月 コスモス畑の草刈り、東清小オープンスクール時の駐車場の案内とお迎えお見送り、「みらい楽器ラボ」のチラシ製作、新1年生と転校生に新米配達、東清小PRのチラシの配布準備、コスモスの花の鑑賞会実施 ・10月 「輝け！東清小、未来の会」作成の東清小PRのチラシを市内の各幼稚園、保育園に配布、サツマイモの収穫、東清小オープンスクール時の駐車場の案内とお迎え、お見送り。「東清っ子まつり」の支援金をPTA会長に手渡し ・11月 木更津市のオーガニックフェスで東清小PRのチラシ配布、転校生2名に新米配達 東清小オープンスクール時の駐車場の案内とお迎えお見送り、PTA主催の「東清っこまつり」に協力（景品引き換え）、サツマイモ畑の耕し・雑草取り。 ・12月 東清小オープンスクール時に駐車場の案内とお迎えお見送り、東清公民館主催のしめ縄作りに協力 ・1月 東清小4年生の児童に北部包括支援センター主催の認知症サポーター養成講座のお手伝い、「みらい楽器ラボ」の講演会実施 ・2月 東清小主催のツリーイングのお手伝い、木更津市協働のまちづくり活動支援事業の申し込み ・3月 木更津市協働のまちづくり活動支援事業のプレゼン実施 また、通年活動として「見守りたい」活動の実施+、「輝け！東清小、未来の会」の月報作成・配達、SNSへの発信、を実施しました。		

令和5年度木更津市協働のまちづくり活動支援事業 提案事業

No. 4

事業名称	木更津市立東清小を存続させる事業		
団体名 (構成人数)	「輝け！東清小、未来の会」 (4 5 名)	代表者	三根 裕之

収支予算書

収入項目	金額 (円)	備考	支出項目	金額 (円)	備考
協働のまちづくり 活動支援金	350,000		報償費	180,000	しめ縄作り講師、 オペラ演奏と歌唱 指導
各自治体からの助 成金	130,000	東清小学校区の自 治会	参加料	3,000	フェスの参加費
募金・寄附	30,000	募金箱2個使用			
雑収入	15,000	学区外の子供のイ ベントの参加費	消耗品費	100,000	会報紙代、コロナ 対策費(消毒アル コール、ティッ シュ)、会報イン ク代、事務用品
			燃料費	5,000	草刈り機、耕運機 の燃料
			印刷製本費	110,000	東清小、PRのため のチラシ、垂れ幕 製作費、ステッ カー作成
			保険料	5,000	賠償責任保険料

事業名称	木更津市立東清小を存続させる事業				
団体名 (構成人数)	「輝け！東清小、未来の会」（ 4 5 名）			代表者	三根 裕之
			原材料費	100,000	苗、種、肥料、ブロック、炭、ブルーシート
			使用料	7,000	耕運機借用
			飲食費	5,000	外仕事水分補給
			通信運搬費	10,000	
合計	525,000		合計	525,000	

事業名称	里山農業体験塾		
団体名 (構成人数)	里山農業体験塾 (15名)	代表者	鶴岡 泰司
事業の内容	農業や農村を取り巻く環境は厳しく、特に中山間地は小規模であり後継者や担い手不足もあり行政の支援は、なかなか進んでいません。 その代表的な木更津市の東部の真里谷の地で、耕作放棄地を活用して交流の場とします。そこでは、露地野菜の栽培等を通し農業体験して貰い、里山の魅力・楽しさを発信します。地域の魅力度アップを目指します。 市民農園のように区画地を貸与して終わりではなく、貸し手、借り手、お客の立場から、よりよい方法を研究して観光農園の様々な形態を、提案して地域の活性化に取り組みます。 1. 有機肥料の作り方等 (オーガニック栽培の研究) 2. 収穫方法や参加費の検討 (観光農園のシステムの構築) 3. 楽しい農業作業の研究 (機械化・料理の研究・講習会) 4. 管理作業の省力化 (除草、農薬等) 5. 会員制導入の検討 (働き方改革・法人会員を募集) 6. 不耕作地・空き地の紹介 (市担当課と連携)		
審査基準： 「公益性・実現性」			
事業の必要性と 目的	少子高齢化の進展で地域の過疎が進み、地域の活力が消失しています。自然豊かな地域の魅力を感じてもらえ、定住者が増える契機となるような農業・農村体験を企画運営する地元農家の研究の場とします。 ホームページやマスコミをフルに活用して、里山農業体験塾の「観光農園」をPRし、一步一步着実に交流人口の増を目指します。 昨年に引き続き道の駅、ブルーベリー協議会、JA木更津、観光協会と連携し活動します。		
審査基準： 「公益性」			
スケジュール	3, 4, 5月 協力農家の確保 【耕作地 農機具の確保 指導者の確保】 事務所、納屋、作業場の決定、看板製作、栽培計画 収穫祭の企画 6月は、梅の収穫、加工 ◎ジャガイモ栽培 3アール 親芋30k 耕うん 植え付け(3月上) 土寄せ(4月中) 収穫(6月中) ◎カボチャ 4アール 苗100本 耕うん 元肥20k 堆肥 マルチ 定植 収穫(9, 10月中) ◎大豆(枝豆) 3アール 耕うん 播種(5月中) 移植 収穫(9月中) ◎サツマイモ 3アール 耕うん 定植 収穫(10, 11月中)		
審査基準： 「実現性」			

事業名称	里山農業体験塾		
団体名 (構成人数)	里山農業体験塾 (1 5 名)	代表者	鶴岡 泰司
事業の特色 審査基準： 「独創性」	木更津の東部の丘陵地で、新しい観光農園のシステムを提案していきます。 会員制（個人 法人 家族）等を検討します。 オーガニック農業を、探求してみます。 収穫祭を交流の場として位置づけ料理方法の研究・発表もします。 農作業もすべてを、交流の機会と大切に位置づけます。 道の駅等で品評会、即売会などを企画開催します。 インターネットで、生育状況を発信します。		
来年度以降の 事業展開予定 審査基準： 「発展性・自立性」	不耕作地・空き家の活用を検討します。 サツマイモ等の6次産業化をさらにおしすすめます。 キャンピングカー等での、来訪者の為駐車場を整備 公民館、JA、ブルーベリー等の関係団体とのネットワークを構成します。		
過去の活動実績	ふるさとの秋を楽しむ会 梅の加工の料理教室 城山たけのこ祭りの参加	過去に木更津茶華道協会と地域の共催 富来田公民館に圃場を提供（昨年共催） それぞれの団体で参加	

令和5年度木更津市協働のまちづくり活動支援事業 提案事業

No. 5

事業名称	里山農業体験塾			
団体名 (構成人数)	里山農業体験塾	(1 5 名)	代表者	鶴岡 泰司

収支予算書

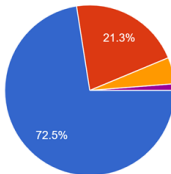
収入項目	金額 (円)	備考	支出項目	金額 (円)	備考
協働のまちづくり 活動支援金	500,000		報償費	100,000	謝礼
会費	150,000	一人 10,000円	旅費	20,000	交通費
参加費	50,000	イベントにより決定	消耗品費	50,000	事務用品
寄付金	130,000	協力者より	燃料費	60,000	トラクター等の燃料
			印刷通信運搬費	50,000	ポスターはがき
			使用料・賃借料	300,000	畑、山、休憩所、作業場
			原材料費	250,000	肥料、種、セメント、碎石
合計	830,000		合計	830,000	

事業名称	オンライン花火大会		
団体名 (構成人数)	地域の学びステーション 木更津盛り上げ隊 (5名)	代表者	鈴木 喬裕
事業の内容	木更津市の伝統あるイベントの「港まつり花火大会」に由来する、プログラミング技術活用したweb上で作品が閲覧できるオンラインイベント「オンライン花火大会」の開催に向けた、プログラミングワークショップを実施します。 プログラミングとは、「コンピュータに、こちらが意図する動き（プログラム）を予め指示する（書き込んでおく）」ことで、木更津市でも令和3年度から順次、小学校・中学校・高校においてプログラミング教育が必修化されました。 ワークショップでは、木更津市の子ども達を中心とした地域住民を対象に、無料で開催し、花火アニメーション作品をプログラミングにより作成します。新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で、オンラインとリアルハイブリッド開催を予定しており、リアル会場は、「みらいラボ」、「きさてらす」を主要会場とし、今後の関係機関との協議次第で市内の学校や公民館での開催も検討しています。 オンライン花火大会は、これらのワークショップでの作品を集約し、webシステムの構築を行い、オンライン上で花火大会を開催しようとするものです。 新型コロナウイルス感染症の感染を懸念し、花火大会等のイベントに来場できない方にも花火コンテンツを楽しめる機会が創出でき、また、リアル会場だけでない楽しみの場を設けることにより、イベント参加人員の分散を図り、感染拡大にも寄与できると考えます。 私たちは、これまで「みらいラボ」や「きさてらす」において、ITキッズフェスタ等のプログラミングワークショップを開催してきました。事業実施にあたっては、プログラミング教育に知見のある専門家の協力を得て実施します。		
事業の必要性と目的	【木更津市にプログラミング教育の充実必要性】 現代社会において、プログラミングで動作する機器は身の回りのありとあらゆるものになってきています。 このような環境下では、プログラミングの知識や理解があるかないとでは、大きな差になってきます。 例を挙げると、コロナ禍でもテクノロジーを活用して感染症に対応するIT化（デジタル化）などでも注目されています。コロナ禍で感染症対策に上手く対応し、オンラインシステム等をスムーズに使いこなせた方々の多くがプログラミング的思考を身に付けていたと言われています。 これからの新様式の社会には、プログラミングの考え方を身につけるのはすべての人にとって必要だと、主要各国の政府が提言しています。 令和2年の小学校から順次中学校・高校・大学入試と必修化されてきたプログラミング教育ではありますが、木更津市含め全国の公教育機関では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による学校の対応忙殺等により、当初予定していたレベルでは実施されていない学校が多く存在します。 しかし、コロナ禍の「デジタル化・オンライン化」等の必要性から見える通り、プログラミングを含むIT教育は、これからの地域教育に非常に重要なものであることから、本事業の教育的必要性は高いものと考えます。 以上を踏まえ、本事業の目的は、「プログラミングを活用したワークショップおよびオンライン花火大会の開催により、木更津市のプログラミング教育と、withコロナ時代の新たなイベントのあり方を地域に提供する」とします。 また、近年木更津エリアを含め全国的に、小中学校に特別支援学級が多く設置されるようになり、発達障害や特性を持った子ども達が増加しています。そのような子ども達にも「オンライン花火特別支援バージョン」としてプログラミングワークショップを提供していきます。		

審査基準：
「公益性・実現性」

審査基準：
「公益性」

事業名称	オンライン花火大会		
団体名 (構成人数)	地域の学びステーション 木更津盛り上げ隊 (5名)	代表者	鈴木 喬裕
スケジュール	令和5年4月 ワークショップ開始 リアル会場「きさてらす」 + オンライン開催 令和5年5月 リアル会場「みらいラボ」 + オンライン開催 ※特別支援版 令和5年6月 リアル会場「きさてらす」 + オンライン開催 令和5年7月 リアル会場「みらいラボ」 + オンライン開催 ※特別支援版 令和5年8月 リアル会場「きさてらす」 + オンライン開催 令和5年9月 リアル会場「みらいラボ」 + オンライン開催 ※特別支援版 令和5年10月 リアル会場「きさてらす」 + オンライン開催 令和5年11月 リアル会場「みらいラボ」 + オンライン開催 ※特別支援版 令和5年12月 リアル会場「きさてらす」 + オンライン開催 令和6年1月 リアル会場「みらいラボ」 + オンライン開催 ※特別支援版 令和6年2月 リアル会場「きさてらす」 + オンライン開催 作品を集約し編集作業・webシステム構築作業 令和6年3月 リアル会場「みらいラボ」 + オンライン開催 ※特別支援版 オンライン上にてイベント公開		
審査基準： 「実現性」			

事業名称	オンライン花火大会		
団体名 (構成人数)	地域の学びステーション 木更津盛り上げ隊 (5名)	代表者	鈴木 喬裕
事業の特色	本事業で提供するワークショップは、本団体と関係者により開発したオリジナルの花火アニメーションを作成するプログラミングワークショップで、昨年度のワークショップ参加者からも評判がよく、10人が作れば10通りの花火が出来上がることから、プログラミングを楽しみながら学べる活動となっています。 令和4年度に実施した5回のワークショップは、感染対策で人数を絞りながらの実施にもかかわらず、述べ人数200名を超える方々にご参加いただきました。本団体は、木更津市で平成30年に始まり、これまで多くのプログラミングワークショップを実施してきました。企画参加者の評判もよく毎年企画を楽しみにしていただいている方が多くおられます。 また、令和4年度にワークショップに参加した80組にアンケートを実施した結果、実に93.8%の参加者さんが「よかった」もしくは「とてもよかった」と回答し、満足度の大変高い企画であることが客観的にも見て取れました。以上のことから、オリジナルプログラムを使用した本事業を、地域で長年のプログラミング教育実績を持つ本団体が実施することが求められる事業と言えます。		
審査基準： 「独創性」	 ワークショップの満足度（よかったかどうか）はいかがでしたか？ 80件の回答  ● とてもよかった 72.5% ● よかった 21.3% ● ふつう 4.4% ● あまりよくなかった 1.3% ● よくなかった 0.5%		
来年度以降の 事業展開予定	4年目となる来年度は、支援金の援助を受けつつ、企業からの協賛金等により、自立したサステナブルな運営方式に移行していく予定です。 協賛する企業から見ても、魅力的な貢献意義のある活動にしていくため、地域や時代に求められる教育活動に発展させながら提供していく予定です。これまでの実施にあたっては、木更津エリアで知名度や歴史のある企業・団体に協賛していただきました。  協賛 木更津協働のまちづくり活動支援		
審査基準： 「発展性・自立性」	プログラミングで作成するプログラムやワークショップは、得られた知見等を取り入れて、さらに魅力的なコンテンツに昇華させていくことが可能です。昨年のワークショップからも、参加者さんが行っていたプログラムアレンジなどの良い改善点ポイントが得られました。このような実績を活かして、4年目以降もアップデートした内容を提供し、活動を発展させていく予定です。		

事業名称	オンライン花火大会		
団体名 (構成人数)	地域の学びステーション 木更津盛り上げ隊 (5名)	代表者	鈴木 喬裕
過去の活動実績	木更津エリアにて5年以上の期間に渡り、プログラミング教育を始めとする地域教育に貢献する活動を実施 2018年7月 「ITキッズフェスタ夏」 みらいラボにて開催 約150人来場 2018年11月 「ITキッズフェスタ秋」 みらいラボにて開催 約200人来場 2019年7月 「ITキッズフェスタ夏」 みらいラボにて開催 約250人来場 2019年8月 「ITプログラミングフェスタ」 きさてらすにて開催 約250人来場 2020年4月 コロナ禍において「ITキッズフェスタ」をオンラインで開催 2021年1月 木更津市からの依頼により「オーガニックなまちづくり交流会」開催におけるデジタル技術協力を提供 2021年7月8月 オンライン花火プログラミングワークショップを きさてらすにて実施 2021年9月10月 オンライン花火プログラミングワークショップをみらいラボにて実施 2022年7月～2023年1月 オンライン花火プログラミングワークショップを開催 		

事業名称	オンライン花火大会		
団体名 (構成人数)	地域の学びステーション 木更津盛り上げ隊 (5名)	代表者	鈴木 喬裕

収支予算書

収入項目	金額 (円)	備考	支出項目	金額 (円)	備考
協働のまちづくり活動支援金	500,000		委託費	110,000	令和5年版Web予約システム改修・運営(毎回開催にあたりイベントチケット等は新たに設定し運用)、令和5年版Web公開ページ改修・運営、チラシデザイン(毎回同じデザインでは反響率が下がるため複数パターンのデザインを製作活用)
協賛金	200,000	協賛企業・団体・組織等			
自己資金	100,000		報償費	300,000	プログラミング教育外部講師依頼 25,000円×1名×12回
			使用料・賃借料	120,000	機材リース タブレットor PC端末6台×12回
			印刷製本費	240,000	チラシ印刷1.2万枚×12回(木更津市内の小中学校に配布)
			消耗品費	30,000	タブレット用キーボード、除菌シート、コピー用紙、電源ケーブル 等
合計	800,000		合計	800,000	

事業名称	波岡HELP		
団体名 (構成人数)	波岡HELP実行委員会（４名）	代表者	堀切 辰也
事業の内容	地域住民が住み慣れた家、地区で安心して暮らすために普段の生活の中の「ちょっと困った」のお手伝いを住民同士の助け合い有償ボランティアでつないでいます。 ちょっとした困りごとをお願いする利用会員（1200円支払/1時間） ちょっとした困りごとをお手伝いする協力会員（800円受取/1時間） 会員制（入会金1000円、年会費2400円） 差額400円/1時間を運営費として事務局が無償ボランティアで運営しています。 【主なお手伝い内容】 買物代行、ごみ出し、外出支援、お話相手、日曜大工、掃除、洗濯、調理、庭草取り、家具移動、電球交換、院内同行、ペットの世話、役所・銀行同行など 【なぜ有償なのか？】 波岡HELPの協力は職業ではなく、住民同士の助け合いの活動ですが、責任を持って継続して活動していくため、また、利用の方が気兼ねなく利用できるように有償で行っています。		
審査基準： 「公益性・実現性」			
事業の必要性と目的	地域住民の生活の質、向上を目的としています。 社会構造の変化により、高齢者を取り巻く環境は厳しさを増し、老々介護、独居、孤独死などの悲惨なニュースを多く聞きます。活動を通じて見えてきた景色は、介護保険では対応できない困り事がおおいこと、困っている事を近所や民生委員に知られたくないと考える人がおおいこと。 無縁社会、人間関係の希薄化により相談する人がいない、頼る人がいない高齢者、生きづらさを抱えた方々の地域社会での居場所の確保、見守り、支援が必要となっています。 これらのことを踏まえ、波岡HELPでは「お互いさまのまちづくり」を合言葉に、顔の見える人間関係の再構築を目指します。 また、副次的効果としては支援を受けるだけでなく得意な事でお手伝いをする高齢者も増えるなど地域社会での役割を得て、活躍し感謝されることによる自己肯定、健康、生きがいの創出となっています。 自分のペース、すき間時間での協力が可能なので子育て中のお母さんや育児と親の介護を同時に抱え離職中の方々のキャリアバンクの一助となっています。		
審査基準： 「公益性」			

事業名称	波岡HELP		
団体名 (構成人数)	波岡HELP実行委員会（４名）	代表者	堀切 辰也
スケジュール	2023年度 ・有償ボランティア活動の継続運営 ・会員をバランスよく増やしていくための広報（チラシ配布、掲示）実施 ・会員数増加によりエリア担当コーディネーターを有償ボランティアで設置 ・円滑な運営を目的とした波岡HELPサイトの継続 ・畑沢HELPとの連携 ・岩根地区自治会有償ボランティアとの連携 ・地域包括支援センター等、関係団体との連携、情報交換を適宜に行う ・より良く継続していくために協力会員同士の情報共有、情報交換の機会をつくる ・市内その他地域の設立のきっかけづくりを目指し希望の各所でスタートアップ勉強会の開催 ・会員の知識、スキルアップを目的に講座開催 【スケジュール】 2023年 7月「介護認知症」講座 8月会員情報共有、交換会 9月スタートアップ勉強会 10月「タブレット、スマホ」講座 2024年 1月「DIYリフォーム」講座 2月会員情報共有、交換会 3月スタートアップ勉強会 ※講師、コロナ、情勢の変化により予定、内容の変更の可能性あり		
事業の特色	・困りごとの内容によりお手伝いする側とお手伝いしてもらう側のどちらの立場でも参加できる。 【対象エリアを限定】 ・波岡地区は高齢者地域と子育て地域がわかれているため困りごと異なる。その異なる困りごとをお互いに助け合っています。 ・移動時間、交通費のコストの負担が少なく、困りごとにもタイムリーに対応できる。 ・共通の話題がおおく会員同士なじみやすく安心できる。 【多様な困りごと】 ・お手伝いを限定することなく多様な困りごとにフレキシブルに対応できる。 ・自分の得意、趣味でお手伝いするので生産性が高い ・サービス内容に関わらず料金は一律なので安心して利用できる。 【その他】 ・地域貢献を主眼に置いた活動のため、災害時に備え専門技術やリソースを災害復旧に役立てる呼びかけを行っている。 ・市内初の有償ボランティア団体であったこともあり、他の地域ではじめる方の見学、相談の場でもあり、新規の設立支援（ノウハウ、資料の共有）を行っている。 ・福祉と営利活動の中間の事業であり、比較的リラックスした雰囲気でお手伝いが行われることにより利用会員からは「ゆっくり作業して話し相手にもなってくれる」「単なる困りごとの解決でなく心のよりどころとなり安心の一つになっている」協力会員からは「待ってました、ありがたいなどの笑顔にこちらが励まされる」「平凡な主婦の経験、趣味が役立ちうれしい」「利用会員さんから教わる事がおおい」「新たな自分の発見がある」などの参加メリットがある。		

審査基準：
「実現性」

審査基準：
「独創性」

事業名称	波岡HELP		
団体名 (構成人数)	波岡HELP実行委員会（４名）	代表者	堀切 辰也
来年度以降の 事業展開予定	ボランティア活動の継続運営 ・波岡HELPサイト継続運営 ・会員の知識、スキルアップを目指し、学習会・講座などの開催や参加を行います。「高齢者デジタル講座」「防犯・防災」など ・オンライン、オフライン双方にて場所を確保し住民同士のつながりのきっかけづくりを行う ・緊急時、災害時に備え連絡体制、連絡網の環境の展開 ・利用・提供それぞれの公式LINEアカウントネットワークの構築 ・地域課題である空家問題において空家の管理、及び、元気なうちから計画を立て「空家にさせない」対策に取り組む ・近隣地区の関連団体とのネットワーク構築を図り情報交換を行い、活動の継続を目指します ・スタートアップ勉強会、広報を通じて市内全域に有償ボランティアを展開する		
過去の活動実績	2019年9月以降現在まで102時間、月平均約8時間の作業実績。 作業内容は、買物代行、草刈り、話し相手、電球交換、その他と多岐にわたり実施しています。 紹介元は、木更津市南部地域包括支援センター、民生児童委員、木更津市社会福祉協議会、からの紹介による紹介も相当数あり今後も連携予定 ・2018年12月には代表が木更津市、木更津市社会福祉協議会の後援を受け「相続、家族信託」「高齢者認知症と周囲の対応」「デジタル終活とスマホ、タブレット」講座を開催実績あり。 ・代表が、他地域有償ボランティア団体設立希望者との情報交換を経て。その結果、畑沢地区において畑沢HELPが始まりました。 ・地域自治会、地区社協、民生児童委員などで組織された「地域を考える会」との連携により会員募集イベントを行った。		

審査基準：
「発展性・自立性」

事業名称	波岡HELP		
団体名 (構成人数)	波岡HELP実行委員会（４名）	代表者	堀切 辰也

収支予算書

収入項目	金額（円）	備考	支出項目	金額（円）	備考
協働のまちづくり活動支援金	500,000		労務費	112,000	800円×140時間
入会金	15,000	1,000円×15人	消耗品費	147,000	事務用品、用紙、草刈機、チェーンソー（刃）、その他
年会費	84,000	2400円×35人	燃料費	50,000	草刈り機、チェーンソー、発電機、その他
賛助会費	30,000	3,000円×10口	保険料	70,000	東京海上日動ヘルパー保険2,000円×35人
報酬	168,000	1,200円×140時間	印刷・コピー代	40,000	呼びかけ資料印刷、コピー
			備品費	138,000	ハイウオッシュャー、発電機
			保管委託費	120,000	10,000円×12カ月
			サイト管理サーバー費	60,000	5,000円×12カ月
			講師謝礼	60,000	講師謝礼（3回）
合計	797,000		合計	797,000	

事業名称	波岡プレイパーク		
団体名 (構成人数)	波岡プレイパーク実行委員会（4名）	代表者	竹内 愛美
事業の内容	波岡地区で常設型のプレイパーク運営を目指しています。 羽鳥野公園隣接地（羽鳥野7丁目21番）に於いて屋外での自由な「遊び場」を提供し、得られるさまざまな体験や交流がきっかけとなり、子どもたちの自主性や主体性、社会性やコミュニケーション能力を育みます。 【プレイパークとは】 「自分の責任で自由に遊ぶ」 「何をしてもいい、何もしなくてもいい」 「開催中はいつ来てもいつ帰ってもいいし、お金もかかりません」 「子どもの好奇心を大切にして禁止事項やルールは最低限」 かまどを囲んでパンを焼いたり、水遊びを存分にしたり、高いところに登ったり、土を掘って泥だらけになったり・・・。 そのようなプレイパークの常設化に向けた1dayプレイパークを6回、今年度は開催予定です。 また、プレイパーク利用者で有志を募り、子ども自身が計画、実施、振返りを行う模擬店の出店を八幡台夏祭り、木更津こどもまつり等で行います。		
審査基準： 「公益性・実現性」			
事業の必要性と 目的	昨今の子どもを取り巻く環境は、社会構造の変化により、経済、生活が複雑化し、最近では、ひきこもり、いじめ、DV、虐待などの悲惨なニュースを多く聞きます。また、おとなの働き方も多様化し、子どもの学校、家庭以外の地域社会での第3の居場所が必要となっています。 子どもの成長過程に必要な、五感を刺激する多様な経験、それらの刺激は家の中よりも外のほうが圧倒的に多いものです。自然の中の音や光、風、色、匂い、手触り、暑さ寒さなどを感じることで、子どもの脳は活発に働き、発達していきます。子どもは、広い場所で思い切り体を動かすことで、自分のエネルギーを発散させることができます。また様々な人との交流を通じ、地域での世代を超えた交流の機会を設けることで、社会に大きく羽ばたき、いきいきと生きる子どもの育成が期待できます。また、課題を抱えた子どもに対しては、地域・近所での顔見知りの人間関係の再構築から見守り、見守りから支援へとつながることを期待しています。 これらのことを踏まえ、新たなまちづくりの一環として「自由になれる時間」と「地域での第3の居場所」を作ることで、子どもだけでなく、地域全体の世代、家庭を超えて、顔の見える人間関係のきっかけとなり、子どもたちの健全育成、及び非常時や災害に強い街づくりとしても役立つことが期待できます。		
審査基準： 「公益性」			

事業名称	波岡プレイパーク		
団体名 (構成人数)	波岡プレイパーク実行委員会（4名）	代表者	竹内 愛美
スケジュール	2023年度 ・1dayプレイパークを6回開催 ・毎回終了後、振返りを行うほか、適時、運営会議を実施 ・広報（チラシ配布、掲示SNS）を行う ・他団体（プレイパーク協会等）との連携 ・スタッフの意識向上や他のプレイパークの現状・情報を得るために講師を依頼し勉強会を行います。実施にあたり、市内の他のプレイパークの関係者や関心のある方へ呼びかけ、希望者には参加していただきます。 【スケジュール】 2023年 4月 定例会 5月 環境整備及び、広報 6月 1dayプレイパーク実施・定例会 7月 1dayプレイパーク実施 8月 八幡台夏祭り模擬店・定例会 9月 1dayプレイパーク実施 10月 勉強会開催 11月 1dayプレイパーク実施、木更津こどもまつり模擬店 12月 定例会 2024年 1月 1dayプレイパーク実施 2月 1dayプレイパーク実施・勉強会開催 3月 定例会 ※プレイパーク実施時には社会福祉協議会ボランティア活動行事保険等に参加します。		
事業の特色	・子どもの好奇心を大切に禁止事項やルールは最低限にすることにより子どもの健全育成に寄与できる。 ・子どもだけでなく、お母さん、お父さん同士も遊ぶということを通して、知り合い、話し合い、つながりあういい関係づくりができる ・運営スタッフとして携わるにより生きがいが創出できる。 ・木更津市立小学校の中でも2番目に児童数のおおい八幡台小学校から徒歩17分と子どもの生活圏にある ・木更津市立小学校の中でも1番目に児童数のおおい真舟小学校と学区が隣接していることからもおおくのこどもの参加が見込まれる ・高速バス羽鳥野バスストップから徒歩2分の立地のためアクセスも軽快 ・赤ちゃんからお年寄りまで、誰でも来ることができます、乳幼児や小学生だけでなく、支援の谷間と言われている中学生や高校生の地域での居場所のひとつとなる。 ・この事業は、こどもに限定しないで親やお年寄りなど地域の方が「どなたでも」自由に参加でき、様々な地域の人をつなげ、みんなでまちをつくっていく力も秘めています。		

審査基準：
「実現性」

審査基準：
「独創性」

事業名称	波岡プレイパーク		
団体名 (構成人数)	波岡プレイパーク実行委員会（4名）	代表者	竹内 愛美
来年度以降の 事業展開予定	・継続してプレイパークを開催します。 ・近隣地区のプレイパークとのネットワーク構築を図ります。 ・子ども関連の他団体とも情報交換、連携し地域一体となって活動の継続を目指します。 ・自治会や関係機関とも連携し子どもが主体的に運営する模擬店の出店を行います。 ・運営スタッフのスキルアップを目指し、学習会・講演会などの開催や参加を行います。 ・さらに環境整備をすすめ雑談ができる場所を確保し、同世代や世代を越えて雑談を楽しめるようにしていきます。		
過去の活動実績	新規事業のため無し ただし実行委員メンバーの活動実績として 中学高校教員免許保持者・児童養護施設元施設長・羽鳥野自治会長・こども食堂代表・木更津市子ども会育成連絡協議会副会長・青少年相談員メンバーで活動を行っていきます。		

事業名称	波岡プレイパーク		
団体名 (構成人数)	波岡プレイパーク実行委員会（4名）	代表者	竹内 愛美

収支予算書

収入項目	金額（円）	備考	支出項目	金額（円）	備考
協働のまちづくり活動支援金	500,000		消耗品費	162,000	事務用品、備品等
賛助会費	50,000	5,000円×10人	燃料費	40,000	
模擬店収益	230,000		原材料費	200,000	ウッドデッキ、パーゴラ
			保険料	28,000	1,000人×28円
			印刷・コピー代	20,000	
			備品費	290,000	倉庫、雨水タンク、シンク
			講師謝礼	40,000	20,000円×2回
合計	780,000		合計	780,000	

事業名称	コミュニティカフェによる人と人の居場所づくり事業 ～子ども食堂や高齢者などの食を通して～		
団体名 (構成人数)	NP0法人里のめぐみ(10名)	代表者	金井 珠美
事業の内容	・大久保地区の民家を利用してコミュニティカフェをオープンする。対象は近隣住民に限らず、木更津市民とする。 ・同コミュニティカフェで月に1回、子ども食堂を開催し、大人も子供も参加でき、みんなで楽しく過ごせる居場所の提供。 ・食を通じて、いつでも立ち寄れ、居心地の良い空間をすることにより、子育ての悩みや高齢者の見守りなど居場所の確保を目標にする。 ・必要によって、共通の悩みや楽しみをつなげていくことにより地域のネットワークを広げていく場の提供を目指す。 ・SDGsの視点から事業を展開し、17のテーマのうち該当するターゲットに近づけるとともに利用者とともに理解を広げてゆく。		
審査基準： 「公益性・実現性」			

事業名称	コミュニティカフェによる人と人の居場所づくり事業 ～子ども食堂や高齢者などの食を通して～		
団体名 (構成人数)	NP0法人里のめぐみ(10名)	代表者	金井 珠美
事業の必要性と 目的	・波岡地区（八幡台から畑沢）の高齢化世帯と羽鳥野、真舟、新請西地区の若年層世帯の2極化による問題として、波岡地区では、高齢者が約8,000名。内要介護者が約12%である。また、65歳以上の夫婦のみの世帯は51.7%と市内で一番多い（R2年木更津市資料）。この旧ニュータウンの高齢化と羽鳥野地区の若年層世帯を中心にした八幡台小学校の児童数は848名、真舟小学校は1,000名を超えている。これらは、高齢化による孤立やひとり親などの子どもの孤食につながる可能性が高い。 ・これらを少しでも解決していき、社会的資本（ソーシャル・キャピタル）を有効に活用しながら地域の活性化に結び付けていく（平成26年度厚労省資料「住民組織活動を通じたソーシャル・キャピタル醸成・活用にかかる手引き」というのが、このコミュニティカフェ事業の目的である。 ・いつまでも元気で暮らしていくためには、今日行く所がある。今日やる用事があることが必要とされています。コミュニティカフェのメリットとしては、 ・散歩のついでにふらっと立ち寄っておしゃべりをする。 ・話を聞く。雑談をする。 ・一緒にお茶を飲む。ご飯を食べる。 ・……などを通して元気に暮らすことができる。 ・話すことで暮らしの知恵などの情報交換ができる。 ・若い人にも子育ての知恵や工夫、悩みの相談や解決の一助になる。 ・各世代間を越えて、交流の場として様々な効果が表れることを期待している。 ・まとめるとコミュニティカフェは、孤立から物事に関心を持ち参加していくための手助けになり、支援が必要な人や社会的に孤立している人などが、カフェを活用して、楽しく食事をし、懇談を重ねるうちに、孤立の解消や、健康で豊かな気持ちに改善され、新しいつながりができる場所の提供になる。 ・また、SDGs（国連が呼びかけて環境問題、貧困、ジェンダー、食糧問題など世界が抱えている問題解決を提案）の視点から事業の達成を目標にする。日本では、政府が2015年より推進本部を、2020年から段階的に学校のSDGsの教育が始まっている。判断基準すべてがSDGsではないが、持続可能な開発目標を持つことは「誰も置き去りにしない社会を作るため」に必要なことである。 ・子どもの居場所として、カフェで多様な世代と交流することで健全な成長の一助となるとともに、カフェにいれば安心安全な時間となる。		

審査基準：
「公益性」

事業名称	コミュニティカフェによる人と人の居場所づくり事業 ～子ども食堂や高齢者などの食を通して～		
団体名 (構成人数)	NPO法人里のめぐみ(10名)	代表者	金井 珠美
スケジュール	4月 ボランティアを募り、厨房と食堂の仕切りの作製。厨房の天井のペンキ塗り（保健所の営業許可のため必要） 5月 保健所の検査（営業許可）、スタッフの検便、保険加入 6月 コミュニティカフェ オープン（当初は週2回程度開店） 以降～3月 月に1回、子ども食堂開催 月に1回、テーマを持ったイベントを開催 （雑談会やワークショップ、読書会、音楽会など） （介護、子育てなどのテーマの会合も） コミュニティカフェの初年度は、徐々に週3回開店を目指す		
審査基準： 「実現性」			
事業の特色	・予定地の周りにはカフェのような場所が少なく、気楽に立ち寄る場所もないので、おばあちゃんの家に戻ってきたような雰囲気を作り、ランチやドリンクを提供する。「おいしいご飯を食べているときに怒る人はいない」をコンセプトに気軽に立ち寄ってもらう。 ・こども食堂は、「ちいき食堂」を目指し誰でも参加でき、子どもに限らず年配や子育て中の方などみんなで会食をし、歓談する。 ・一緒に食べることで新たなコミュニティが生まれ、共通の話題ができる交流の場となり、話し合ったことを実現していける場所。月に1度テーマのある会合、ワークショップなど開催する。 ・SDGsの視点で事業を考える。		
審査基準： 「独創性」			
来年度以降の 事業展開予定	・コミュニティカフェの趣旨に賛同し、来店できない人（身体的、物理的）への宅配弁当の開始 ・利用者の希望するテーマに沿った講演、講習の実施 ・利用者のニーズに合わせたカフェメニューの開発 ・レンタルスペースの提供 ・朝の子ども食堂の開催 ・困りごとの相談、解消		
審査基準： 「発展性・自立性」			
過去の活動実績	・NPO法人里のめぐみは、昨年10月に千葉県により承認された団体のため法人自体の実績はありません。しかし、会員の多くは、子ども食堂の運営経験者で、木更津波岡こども食堂で開設から6年、子ども食堂馬来田ぷらすは開設から9か月実施しています。また、会員の中には、調理師、栄養士、食生活改善委員、介護施設の運営に携わり介護のプロがいます。		

事業名称	コミュニティカフェによる人と人の居場所づくり事業 ～子ども食堂や高齢者などの食を通して～		
団体名 (構成人数)	NPO法人里のめぐみ(10名)	代表者	金井 珠美

収支予算書

収入項目	金額 (円)	備考	支出項目	金額 (円)	備考
協働のまちづくり活動支援金	500,000		原材料費	400,000	・厨房と食堂の仕切り設置のための材木19万円、ペンキ5万円。 ・子ども食堂(食材14万円、調味料2万円)
コミュニティカフェ参加料	120,000	カフェ飲食代金の約3割	備品費	200,000	冷蔵庫8万円、オープン4万円、炊飯器3万円、照明器具3万円、流し2万円
子ども食堂参加料	50,000	子ども100円、大人300円	消耗品費	80,000	食器4万円、除菌用品1万円、のぼり旗2万円、ごみ袋他1万円
自己資金	80,000		印刷製本代	40,000	チラシ印刷3万円、資料印刷1万円
			保険料	20,000	子ども食堂保険1万5千円、社協活動保険5千円
			検査費	10,000	検便
合計	750,000		合計	750,000	

事業名称	木曜日の夜ごはん		
団体名 (構成人数)	木曜日の夜ごはん (20名)	代表者	藤井 佳子
事業の内容	○毎週木曜日 17:30～21:00 子どもたちの居場所を開いています。 夕食の提供。 通信や普通科に通う高校生、不登校の中学生、小学生、ボランティアの大学生、専門学生たち。それぞれ宿題をしながら教えあったり、好きなゲーム、音楽を聴いたり、絵を描いたり、お菓子を食べてソファでゆるゆるしたり、おもいおもいに過ごしています。 ○令和5年4月より、同上の木曜日の夜ごはんにて、 月1のおすそわけ弁当「寄るごはん弁当」開催予定。 木曜日の夜ごはんに参加している大人や子どもたちに手伝ってもらいながら、寄るごはん弁当を作ります。 木更津市社会福祉協議会が運営する学習支援の子どもたちや、みらいラボに訪れている人たち、シングルマザーや生活困窮世帯、地域の買い物難民の方へお弁当の配布を行う。 ○コミュニティガーデン 開催場所の「ぼった庵」裏庭で、通所に通ってくる利用者の高齢者、障がいがある方たちと共に、畑やハーブの栽培を行っています。 季節の野菜を子どもたちに収穫体験、味わってもらいたいとの思いから、令和5年度より、子どもたちにも裏庭のコミュニティガーデンに関わってもらいます。 ○木曜日の夜ごはんに、ゲスト講師を招きます。(年2回) 多文化共生、多世代交流、言葉ではなく、肌で直に感じてもらいたい。 ゲスト講師予定：実方裕二さん 重度の脳性麻痺を抱えながら、地域で自立生活を営んでいます。 バンドを組み、音楽活動で発信しています。 介助者に言葉で指示をだしながら、作り出す絶品料理の数々。 東京の世田谷区千歳船橋駅前に「こんにちは！誰でもスペース発信基地ゆうじ屋」を近年開所し、お年寄りから子どもまで、ごちゃまぜで遊んじゃおうを愛言葉に、さまざまなイベントを企画運営されています。 木曜日の夜ごはんに参加いただき、子どもたちと共に料理を作ってもらいます。		

審査基準：
「公益性・実現性」

事業名称	木曜日の夜ごはん		
団体名 (構成人数)	木曜日の夜ごはん (20名)	代表者	藤井 佳子
事業の必要性と 目的	家や学校以外に、子どもが子どもらしく過ごせる居場所を開いています。親や先生以外の大人の存在、学年の異なる子どもたち同士が交わり関わることで、他者への思いやり、自己肯定感、自立心を育むものなのだと、子どもたちの姿を通して、学んできました。 毎週開いてることで、子どもたちの変化や小さなSOSに気づき、フォローすることができます。子どもたち同士、やりとりしながら、勉強を教えあったり、ギターを教えたり、お互いに刺激を受けながら、好きな音楽や趣味の世界を広げあっています。 木曜日に、ばった庵に来ている子どもたちの中には、中学生だったときに社協の学習支援に参加していた子どもたちもいます。地域のなかに子どもたちを受けとめる場が複数あること、その時々で連携していることが大切だと考えています。本当に困っているときは、困っているとなかなか言えないものです。市役所や相談機関に出向いていくことも敷居が高い。ふらっと立ち寄って、お弁当を持ち帰る、「寄るごはん弁当」を通して、顔の見えるつながりと、助けあいの輪を広げていきたいと思っています。 お金を払えば何でも手に入ってしまう時代に、あえて手間ひまをかけながら、コミュニティガーデンで季節の野菜やハーブの収穫、調理、多文化共生、多世代交流する体験を、子どもたちに提供します。		
審査基準： 「公益性」			

事業名称	木曜日の夜ごはん		
団体名 (構成人数)	木曜日の夜ごはん (20名)	代表者	藤井 佳子
スケジュール	○木曜日の夜ごはん 令和5年4月～令和6年3月 毎週木曜日17:30～21:00開催 夕ご飯の提供、誕生日は手作りケーキやパフェでお祝い、庭でバーベキューや花火をしたり、子どもたちのリクエストを聞きながら、手伝ってもらえるところは手伝ってもらいながら、共に居場所を開いています。 ○寄るごはん弁当 同上の木曜日の夜ごはんにて、月1開催 ○コミュニティガーデン 通常の畑の手入れは、ばった庵の職員と利用者の高齢者、障がいがある方たちと行います。 不登校の子どもが日中ばった庵で過ごしているとき、 夏休みなど長期休暇で子どもたちが日中ばった庵で過ごしているときなど、 畑の手入れを一緒に手伝ってもらいます。		
審査基準： 「実現性」	○木曜日の夜ごはんに、ゲスト講師を招きます。(年2回) 多文化共生、多世代交流、言葉ではなく、肌で直に感じてもらいたい。 ゲスト講師予定：実方裕二さん ゲストの体調をみながら日程調整を行います。		

事業名称	木曜日の夜ごはん		
団体名 (構成人数)	木曜日の夜ごはん (20名)	代表者	藤井 佳子
事業の特色	代表の藤井が勤務する通所介護施設で、主にサービス提供時間終了後の施設を子どもたちに開放しています。地域の学習支援やみらいラボと連携しながら、子どもたちが安心して暮らせる地域づくりを目指します。		
審査基準： 「独創性」			
来年度以降の 事業展開予定	閉塞感にあふれている社会のなかで、気軽に相談したり、お茶を飲みながらほっと一息つける場が、子どもにも、大人にも必要だと感じています。 木曜日の夜ごはん、誰でも食堂、コミュニティガーデンを続けながら、地域のなかに、誰でもかけこめる居場所を開き続けていきたいと思っています。		
審査基準： 「発展性・自立性」	子どもたちの成長とともに、表現する機会を作っていきたいと話しています。ギターの演奏会、合唱、絵の作品展など、子どもたちと共に企画していきたいです。		
過去の活動実績	2018年頃より、代表の藤井が木更津市内の学習支援にボランティアとして関わるようになる。もともと生活保護のケースワーカーが、担当していた家庭の子どもたちの貧困の連鎖をどうにかしたい、子どもたちの居場所を、勉強をきっかけに作ろうとしてボランティアベースで始まった学習支援。現在は市から予算が付き、木更津市の社会福祉協議会が学習支援の運営を委託されており、元校長や教師が学習支援指導員として配置されるも、「勉強をさせる場所、監視されてみたい、ゆっくり過ごせない、行きたくないetc」 当時中学生だった子どもたちが高校生、大学生と成長する中で、子どもたちのリアルな声を聞き、出逢った大人の一人としてつながり続けながら、社協の開く学習支援以外の場所が必要だと感じ、2020年にばった庵が開所してからは、毎週木曜日夜にばった庵を開き、子どもたちを受け止めてきた。 「家に帰ってもごはんがない、親が帰ってこない、一緒に食べてetc」シングルマザー、生活保護の家庭など、子どもたちは置かれた環境の中で生きていて。しんどい時はしんどいとなかなか言えない。学校に行っても行かなくてもいい。まずは、子どもたちが安心して過ごせる場所を開きながら、お腹が満たされる中で、それぞれ勉強したり、思い思いに過ごす時間を大切に、子どもたちの育ちを見守っていききたい。 毎週木曜日に夕ご飯の提供、誕生日は手作りケーキやパフェでお祝いしたり、庭でバーベキューしたり、子どもたちに手伝ってもらえるところは手伝ってもらいながら、共に居場所を開いています。 令和4年に入り、進学相談や、アルバイトをしても学費や生活費がまかなえないことなどを、子どもたち本人から相談を受ける。木更津市の自立支援課の職員に相談、子どもたちの気持ちに添いながら役所に同行し、家庭の事情や今後のこと、進学については奨学金制度の利用など、市の職員と一緒に子どもたちに必要な支援を考えていきます。		

事業名称	木曜日の夜ごはん		
団体名 (構成人数)	木曜日の夜ごはん (20名)	代表者	藤井 佳子

収支予算書

収入項目	金額 (円)	備考	支出項目	金額 (円)	備考
協働のまちづくり活動支援金	230,000		原材料費	204,000	木曜日の夜ごはん 食材費 (毎週3000円×4週×12カ月、寄るごはん弁当5000円×12カ月)
寄るごはん弁当カンパ代	54,000	大人3000円×15人×12カ月 (子ども無料)	消耗品費	86,000	使い捨て弁当容器 割りばしスプーン など、ゴミ袋、マスク、除菌液、使い捨て手袋、洗剤、画材費ほか
子ども祭り出店売上	20,000		食品衛生責任者講習費/検査費	20,000	講習費10000円/検便10000円×10人
寄付金	50,000		講師謝礼	40,000	講師謝礼20000円×2回
自己資金	16,000		講師旅費	10,000	講師1名5000円(日帰り)×2回
			原材料費 (畑の苗代、種代)	10,000	コミュニティガーデンで使用する苗や種代
合計	370,000		合計	370,000	

事業名称	ボアソルチ		
団体名 (構成人数)	自分に挑戦、動いて発見（8名）	代表者	柳川 侑也
事業の内容	○スポーツ経験豊富な人材を講師として招き、児童が自分自身への挑戦をしたり、やればできる喜びや自信を味わったりできる場をつくる。 ①特別支援学級児童を対象とした学びの場の提供。 情緒的・知的な支援を必要としている児童が、児童の実態を理解したうえで係り、安心して活動できるスポーツの場は少ない。 ②女子スポーツの裾野を広げる。 女子スポーツクラブとして地域で確立されているのは、メジャースポーツ（バスケットボール、バレーボールなど）に偏っている。メジャースポーツ以外の女子競技選手と係る中で、競技志向や生涯スポーツなどの人生を豊かにするきっかけをもつ。		
審査基準： 「公益性・実現性」			
事業の必要性と 目的	きっかけは些細なことでも、スポーツとの出会いは人生を豊かにすることができる。しかし、「やりたいけど、こわい」「できなかったらどうしよう」そんな子どもたちが安心して活動できる環境を整える必要がある。それは勝ち負けではなく、「挑戦しよう」「やればできた」という前向きな気持ちを育んでいけることに本事業の必要性を感じている。 市内でもさまざまなスポーツ活動が行われているが市外・県外に目を向けると、さらに様々な活動が行われている。 共生（さまざまな人々が、すべて分け隔てのなく暮らしていくことのできる）社会で生きていくためには、環境もちろん大切であるがその環境に対応していくことも同じくらい大切だと考えている。「挑戦しよう」「やればできた」その積み重ねが自信となる。そこで上記①では、特別支援学級児童を対象にして、障害や特性に理解のある講師を木更津に招いて成功体験を積む機会を重ねるという環境を整えたい。上記②では、女子スポーツはメジャースポーツの地域クラブに所属しなくても、スポーツの楽しさを味わうことができたり、スポーツとのかかわり方を知ったりする機会を増やしたい。女子競技選手や指導経験豊富な講師を木更津に招き、スポーツへの係わり方を考える環境を整えたい。 また、スポーツ経験の積み重ねがない児童は、取り組む前から恐怖心を感じてしまうことがある。安心して活動できる場を整えるという観点から、対象者を限定した活動としている。 この事業の講師として考えている方々は、YouTubeによる動画配信や、公式戦の観覧、スポーツ競技の解説を行っている。その場で体感して終わるだけでなく、応援に足を運んだり、将来そのチームで活動したりする可能性を生むことも考えられる。 さまざまな環境をどのように子どもたちの未来につなげていけるのかスポーツをモデルとして挑戦したい。また、本事業は「JFAこころのプロジェクト（夢先生）」としてモデルがあり、木更津市内中学校でも今年度実施された。		
審査基準： 「公益性」			

事業名称	ボアソルチ		
団体名 (構成人数)	自分に挑戦、動いて発見（8名）	代表者	柳川 侑也
スケジュール 審査基準： 「実現性」	い つ：講師のスケジュールと相談（3か月に1回程度）年4回 どこで：清見台小学校体育館、市内体育施設 対 象：スポーツに興味のある特別支援学級在籍児童 スポーツに興味のある女子児童 ※内容により対象を限定する。		
事業の特色 審査基準： 「独創性」	競技スポーツ実績のある選手との出会い 現役アスリートとの出会いによるキャリア教育		
来年度以降の 事業展開予定 審査基準： 「発展性・自立性」	まずは、共生社会や女子スポーツの普及活動 活動の魅力が認知され、安定させたのち競技性が強い内容についても検討し開 催していく。		
過去の活動実績	Y S C C横浜（フットサルチーム）現監督 鳥丸太作氏によるスポーツ教室 デルミリオークラウド群馬（フットサルチーム）によるスポーツ教室		

事業名称	ボアソルチ		
団体名 (構成人数)	自分に挑戦、動いて発見（8名）	代表者	柳川 侑也

収支予算書

収入項目	金額（円）	備考	支出項目	金額（円）	備考
協働のまちづくり活動支援金	186,000		講師謝礼・旅費	120,000	30,000×4回
正会員年会費	4,000	500×8人	ボール代（フットサルボール）	80,000	4,000×20個
第一回参加費	20,000	1,000×20人	ゴール代（簡易設置型）	40,000	20,000×2個
第二回参加費	20,000	1,000×20人	スポーツビブス代	30,000	10枚1セット×2セット
第三回参加費	20,000	1,000×20人	印刷製本費・通信運搬費	10,000	事業周知のための作成費
第四回参加費	20,000	1,000×20人			
自己資金等	10,000				
合計	280,000		合計	280,000	

事業名称	憧れから繋がる地域チャレンジ循環の生態系を創出する ～学生がいく地域魅力発見、発信事業～		
団体名 (構成人数)	クリエイティ部木更津 (30名)	代表者	羽賀 優太
事業の内容	若者の活動・地域の有り様をラジオ・動画・チラシで地域に発信する事業。 1. 若者チャレンジ！ 「教え会い」学生カフェ&学びあえる自習室（毎週火曜日）を開催し、地域にラジオ発信を行う。 現在、寛傳知（かんでんち）という古民家を借りて、多世代交流が集う中で、教え会い、若者がやりたいこと、感じていること、想いなどを、学生同士で話す場を開催している。悩める世代の様々な声を、その場所にこれない若者や地域に発信していく。 頻度：随時 必要物品：ラジオ発信機器・古民家レンタル料他。 2. 学生が行く地域紹介 学生達5名1チームなどが地域に出向き、地域で暮らす人・社会資源にスポットを当て、インタビュー・記録等を行い、動画等の映像を用いてSNSで発信していく。 頻度：3か月に1度 主な必要物品：映像作成用パソコン、発信モニター購入費等旅費（電車賃・ガソリン代）他 3. その他地域への発信 地域資源やその課題、地域で活動している団体などを取材しちらしや、パンフレット等にまとめ配布し発信する。 頻度：年2回主な必要物品：印刷製本・事務にかかる用品		
審査基準： 「公益性・実現性」			
事業の必要性と目的	【目的】 ・コロナ禍の制約がある中で生きてきた次世代の若者達が、多世代と交流し、自分のやりたいことを見つけ、人に伝え行動できる居場所をつくる。 ・若者達が暮らす地域の人や社会資源、活動に接する機会をつくる。 ・若者のチャレンジが人と人をつなげ、全世代へ循環する機会をつくる。 ・若者のチャレンジが人と人をつなげ、全世代へ循環する機会をつくる。 【必要性】 ・若者の悩める場やチャレンジの場を大人や地域が提供する必要がある。 ・あたりまえの地域の「日常」に改めて触れる機会が必要である。 ・若者のチャレンジや地域に暮らす人々のチャレンジを振り返り、伝える必要がある。 ・外に出て人に会うことや地域と触れ合うことが難しい人と情報を共有し、デジタルでつながる必要がある。		
審査基準： 「公益性」			
スケジュール	【令和5年度 事業実施スケジュール】 ①通年 毎月毎週火曜日「教え会い」学生カフェ&学び合える自習室の開催 月4回×12か月＝48回 随時 ラジオ発信 ②2～3か月に1度 「学生が行く地域ぶらり旅」の実施 実施後 動画発信 ③年2回程度 チラシ等の作成・配布		
審査基準： 「実現性」			

事業名称	憧れから繋がる地域チャレンジ循環の生態系を創出する ～学生がいく地域魅力発見、発信事業～		
団体名 (構成人数)	クリエイティ部木更津 (30名)	代表者	羽賀 優太
事業の特色	■若者の内省ややってみたい事に目を向ける機会があること。 ■学校や家庭以外の場所で多世代と交流する場があること。 ■デジタル社会の活用を生かし、SNSを通じて地域に発信できること		
審査基準： 「独創性」			
来年度以降の 事業展開予定	令和6年度 若者と地域の人々の定期的な集まりの場をつくる例：若者主催による住民会議など		
審査基準： 「発展性・自立性」			
過去の活動実績	若者プロジェクトとして自前の資金で活動してきた。以下 No.1 【教え会い】学生カフェ&学び合える自習室 No.2 【着物リメイク】地域にある資源を活用して No.3 【学生ラジオ】リアルな想いや声をお届け No.4 【みらい首脳会議会談】生徒会長が対談で語ります No.5 【地域人インタビュー】地域の人をもっと身近に No.6 【ゲームで多世代交流】昔ながら、みんなで集まって遊ぶ No.7 【伝統文化】新春、房総カルタ大会を企画！ No.8 【学ぶ】ゲストスピーカーを招き講演会開催 No.9 【久留里線】ローカル路線、地域の人と一緒に活性化する！！ No.10 【アオハル写真展】一瞬の思い出を残し、たくさんの人と交流したい。		

事業名称	憧れから繋がる地域チャレンジ循環の生態系を創出する ～学生がいく地域魅力発見、発信事業～		
団体名 (構成人数)	クリエイティ部木更津（30名）	代表者	羽賀 優太

収支予算書

収入項目	金額（円）	備考	支出項目	金額（円）	備考
協働のまちづくり 活動支援金	455,000		消耗品費	32,000	事務用品（ペン、 模造紙、文具等）
教え会い学生カ フェ参加費	144,000	1回3,000円×4回× 12カ月	印刷製本費	30,000	チラシ作成費
共創パートナー	36,000	月1,000円×3人× 12カ月	交通費	50,000	電車賃代
自己資金	48,000		燃料費	30,000	ガソリン代
			賃借料	505,000	活動場所部屋代 255,000円 カメラ等（カメ ラ・レンズ他） 220,000円 ラジオ備品 30,000円
			制作費	36,000	編集時の費用（音 源及び編集ソフ ト）
合計	683,000		合計	683,000	